

宇美八幡宮 雉琴神社 天降神社 熊野神社  
福岡縣神社誌料調書 合綴 (大正四年)

中西裕二・井上隆明 校訂

宇美八幡宮

雉琴神社

天降神社

熊野神社

福岡縣神社誌料調書 合綴

糸島郡長糸村

郷社 宇美八幡宮 控

福岡縣神社誌料調書

福岡縣神社誌料調書

糸島郡長糸村大字川付

郷社 宇美八幡宮

一 名称

社格 郷社

明治五年制定

社名 宇美八幡宮

由来 当社ハ八幡宮勸請(神護景雲元年)ニ先立ち諸神鎮坐ノ靈域ナ

リト雖八幡大神威徳靈驗顯著ナルヲ以テ朝野崇敬諸神ト同シカ

ラズ仍テ社号ヲ八幡宮ト唱フ(当社縁記ニ云フ)宇美ト称フル

所謂此土蒼田別尊御降誕ノ地ナルニ因ルト言伝フ

宇美八幡宮 上宮

本宮ノ南方一町山上ニ在リ上宮又ハ奥ノ院ト唱フ

所在地名 糸島郡長糸村大字川付字長嶽山

由来 隣邑ニ長野ト云フ大字在今当社ノ氏子区域ナリ承元二年源義

頼以下寄進状(神社所藏古文書)ニ筑前国長野庄宇美八幡宮

トアリ長野庄ノ名和名抄ニ見ユ蓋此地方ヲ合セ称セシナルベ

シ 川付ノ名享保二年ヨリ起ル

(追加) 川付村ノ名享保二年独立シテ名称起ル庄崎彌七郎代説

二 祭神

上宮 仲哀天皇

本宮 氣比大神 譽田別天皇 氣長足姫尊

玉依姫命 瓊々杵尊

境内神社

金刀比羅神社 顯仁天皇 豊玉毘古命

宮地嶽神社 勝門姫命 阿部助盛命

阿部高盛命

志那都比古神 志那都比売神 大山祇命

三 鎮座

上宮

人皇第十五代神功皇后三韓御征服ノ後筑紫ニ御還啓武内宿禰ニ令シテ  
香椎ニ置所ノ仲哀天皇ノ御棺ヲ当山ニ移シ陵ヲ築カシメ給フ所謂皇后  
即位ノ年先帝ノ御棺ヲ斂メテ陵ヲ築カセ給フト云ヘルハ是ナリ

(仁明天皇仁寿二年当社御縁記)<sup>(起)</sup>

本宮

仁德天皇治天十年平郡木菟宿祢博公詔ニ依リ氣比大神ヲ此山ニ祭祀ス  
後人皇四十八代称德天皇神護景雲元年八幡宮譽田別天皇香椎宮氣長足  
姫尊宝満宮玉依姫命ヲ勧請ス(当社御縁記<sup>(起)</sup>ニ依ル)祭神瓊々杵尊ハ字  
大原無格社天降神社トシテ祭祀アリシヲ明治四十五年五月廿六日許可  
ヲ受合祀ス

(貼紙)「大正四年七月神饌幣帛料供進神社ニ指定セラル(大正四年

八月二十日追加)大正七年十二月縣社ニ昇格サル」

往古ハ祭祀奠礼誠ニ嚴重ニシテ二月初卯日神樂神事等行ハレ九月十九  
日ニハ神輿三輦袁宇祁能宮ニ渡御翌二十日子負ヶ原浜(社ノ西約二里)  
行幸御駐輦四日ニ及二十四日袁宇祁能宮ニ還幸翌二十五日本殿遷坐年  
々恒例ニシテ闕タル事ナシリキ

徳川幕政ノトキ中津領怡土郡の総社タリ

明治五年長野川付小藏飯原ノ氏神トセラル△

四 祭祀

現時年中祭祀ノ重ナルモノ左ノ如シ

一月一日 歳旦祭 御炊人前日ヨリ齋戒シ十七種五十一盛ノ調理セシ

御饌ヲ奉奠ス調理配膳ノ法総ベテ古例アリ

十月十四日

十五日 新嘗祭

祭祀最嚴重ヲ極ム往昔九月十九日ヨリ廿五日迄深江駅小  
負ヶ原浜(社ノ西約二里)ニ神輿三輦渡御アリシモ何時  
ノ頃ヨリカ中絶シ今ハ長野河頓宮ニ渡御相撲摘流馬等ノ  
奉納アリテ近郷ヨリ男女群參ス其式月ノ朔祭官以下關係  
者一仝社頭ニ參集小負ヶ原海浜ニ禊シ禊社後神殿拜殿神  
門等ニ大神繩ヲ降シ薄暮御神酒開キノ古例<sup>(式ヲ行)</sup>アリフ所謂散  
齋期ニ入レル物ニシテ各自家ニ在ト雖諸穢ニ触ル、ヲ忌  
ミ諸事ヲ謹ム。大祭前一日一仝境内神饌所ニ忌籠シ致齋  
ヲナシ一切ノ不淨ヲ耳ニセズ口ニセズ手ニセズ神殿神輿  
ノ裝飾神饌ノ調理其他ノ祭事ヲ担掌ス就中神饌ノ調理ハ

最モ重ズル処ニシテ御炊人三名ノ外他人ノ関与ヲ許サズ  
御還幸後本殿ニ奉奠スル七五三ノ御饌ト称スル十七種五  
十一盛ノ御食ノ如キハ古雅ヲ極メタルモノニシテ他社ニ  
其類例ヲ見ズ十四日深更神輿頓宮渡御十五日朝室小路御  
酒開キ式(口碑参照) 午后本宮御還幸十六日祭事ヲ終リ  
致齋ヲ撤シ始メテ家ニ帰ル月ノ廿五日散齋ノ終末ニ当リ  
宮坐ト称シ関係者一全ニ丁重ナル饗宴在シガ維新前後ヨ  
リ此宴ノミハ廢絶シテ唯神門ニ掛タル大神繩ヲ撤シテ散  
齋ノ終末ヲ示ス事トナリ居レリ

一月十五日 太麻尔祭

往古ヨリ伝来ノ秘法アリ天災地變農事作況ヲトス

五月十五日 祈念祭

七月十五日 夏季大祭

九月十五日 例祭

十二月初丑日 天降宮瓊々杵尊宮坐祭

### 五 奉幣

鎌倉足利ノ時代ニ於テ武門武将ノ尊崇最モ篤ク承元二年十一月二日源  
義頼延文五年五月六日但馬守源長延文六年七月十三日□□□正平<sup>十</sup>二八  
年三月七日預所正平十八年三月十五日預所永徳元年十一月三日源津康  
応元年十二月三日源□康永二年九月日預所応永七年三月七日小式貞頼  
応永三十三年十二月八日義□重通親輿儀為親豊応永廿四年十一月七日  
□貞重信□政永享八年十一月日鮎川土佐守卷佐河原石見守兼弘西民部  
□通国等或ハ社地ヲ寄セ或ハ社領ヲ奉リ公ニシテハ天下ノ泰平国家ノ

安穩ヲ祈リ私ニシテハ家門繁榮ト武運ノ長久ヲ祈請セリ(以下<sup>及</sup>外寄<sup>ミ</sup>)  
進状<sup>及</sup>外十九通神社所藏)

徳川幕政ノトキ中津領怡土郡ノ祈願所トシテ藩主ノ崇敬深ク晴雨風止  
メノ祈願疫癘流行ノ際ニ於ケル祈禱等必ス当社ニ於テセラレ大祭ノト  
キハ藩使出役シテ祭事ヲ督シ社殿造営ノ際ハ藩庁資ヲ給シテ其工ヲ援  
ケタリ

### 六 社殿

上宮 長嶽山南角高地上經十三間ニ余ル前方後円ノ塚アリ丈余ノ松樹  
其他天ヲ摩シテ聳フ塚上石祠一字青苔ニ埋ル建立不詳

本宮

神殿 改築 元文三年正月 大檀越奥平大膳大夫昌章ト棟札ニ載シア  
リ建造模様不詳

改築 宝歴<sup>曆</sup>九年三月 大檀主奥平大膳大夫昌邦ト棟札ニ記載シ  
アリ建立模様不詳

幣殿 新築 明治三十九年 氏子中  
現在ノ社殿ナリ(伽藍造向拜付ニシテ十三坪四合アリ)

拜殿 改築 明治十四年 氏子中

社務所御炊所 合棟 改築 明治三十八年 氏子中

神輿庫 改築 明治三十五年

參籠所 新築 全四十五年七月

宝藏 新築 大正二年十月

境内神社 式社 不詳

石造華表 參基 天和四年元禄十七年三月及文化四年ノ建立ナリ

## 七 社領

嘉祿三年九月十五日貞頼花押長野庄宇美八幡宮領田數帳ニ六石四斗一升二合トアリ

正長二年十月日實永花押八幡宮寄進田數帳ニ三町七反四丈ノ記載シアリ

天正十五年八幡宮社領書上帳ニ四町三反二丈アリ

元祿十年ノ長野庄八幡宮社領御書出写ト云フニ宇美分四十町松浦分四十町ト書始テ終リシ若干記載シアレ共此末帳損失ト認メテ全フセズ  
(凡テ是等古文書神社所藏) 要スルニ社領実高及沿革不詳ナリ

## 八 社家

人皇第十七代仁徳天皇ノ御宇武内宿禰第四子木菟宿禰伝公勅ヲ蒙リテ勸請祭祀セシヨリ代々其裔孫社務ヲ掌ル後世真言ノ僧トナリモ尚妻帯相統繼承セシガ第七十二世密龍ヨリ清僧トナル(注記・密城ノ誤リナリ 後裔太宰管内誌不詳なり 大正六年六月二十二日追記 武内寅男)  
明治四年第七十七代密雲還俗シテ武内内膳ト改名神官拜命ス今ニ伝フ

## 九 社僧

社家(武内) 遂ニ一時社僧ノ姿トナリ高野山金剛峯寺ニ属シ寺号ヲ長嶽山瑞雲院神宮寺ト称シ又宝蔵坊ト唱フ僧位権大僧都法印タリ宇美八幡宮ノ別当職ニ就キ大用山小蔵寺熊野権現以下十四社ヲ支配ス(延享二年筑紫怡土三ヶ寺記録〔神社所藏文書〕ニヨル)

## 十 遺蹟

仲哀天皇御陵陪塚

上宮(仲哀天皇御陵) 鎮坐ノ長嶽山ハ全山塚ヲ以テ滿サレ明白ニ指呼シ得ル物十ヶ在猶御陵ト一町ヲ隔テ、南方ニ相對侍セル長尾山上ニ二ヶ北方約一町稲葉尾山上ニ二ヶ共ニ大ナル古墳ノ形ヲ成セリ然ト雖此等陪塚大凡発掘セラレ唯御陵ノミ樹根盤踞千載ノ遺蹟ヲ擁シテ巖然今ニ伝ハレリ

## 十一 口碑及伝説

旧家 川上(大字川付) 宮崎(大字長野) 両家アリ宮坐帳ニ川上家別當ノ左坐ニ宮崎家右坐ニアリ両家主出仕セザレバ神幸ノ式ヲ奉仕セズト云フ此家今ニ伝ハリ祭事ニ関与ス

室小路 社ノ東南三丁ニアリ今開カレテ田圃トナレリ

毎年新嘗ノ大祭ニ当リ其祭ニ献ル宮坐ニテ作リシ神酒開キノ式アリ式場足穂ノ稲ヲ刈取ラズ其上ニ荒薦ヲ敷齋主川上宮崎両氏ヲ從ヘテ頓宮ニ面シテ坐シ行司(男女児各一人) 新調ノ白幣十二本ニ紙袋人和稲一升三合ヲ八尋緒繩モテ結ヒタルヲ行司幣ヲ携ヘテ出場ス古式嚴重ニシテ歳々刻ヲ違ヘズシテ行フ其何ノ跡地ナルヤ不詳ナリ

宮地ヶ森 社ノ南方十丁長野川上流山間ニアリ田圃ノ間古松一株樹テリ新嘗祭ニ当リ恒例トシテ耕作者ノ誰ナルニ不拘旧家宮崎家ヨリ其地ノ青豆(大豆) ヲ採集シ煤テ見ニ白酒ヲ浴(河畔ノ頓宮ニテ献ル)

袁宇祁ノ森 社ノ東方七丁大字飯原琴川河畔ニ在古木繁茂ス往古深江

小負ヶ原浜へ神幸式行ハレシ時往復必ず此処ニ渡御一夜  
御駐輦在シト云フ

神輿据岩 社ノ東三丁ニアリ広サ疊ニ枚ヲ敷クベシ袁宇祁森ニ渡御及  
還啓ノ折神輿ヲ据奉シ岩ナリト云ヒ伝フ今土中ニ埋ル里人  
恐ミテ其上ヲ耕作セズ清浄ヲ保テリ

十二 棟札

所藏棟札八本ノ内百年以上経過セルモノ左ノ三ナリ

二 本殿改築棟札



聖主天中天

迦陵頻伽声

天長地久

国家安全

宝曆九年己卯

奉再建宇美八幡宮本祠一字 大檀主

哀愍衆生者

我等今敬礼

領内豊饒

産子栄昌

三月十九日

郡吏

原田藤大夫  
原田忠作

都匠福岡新大工町之住 藤本久右衛門賢矩

奥平大膳大夫昌邦 村長

長野邑 庄崎唯助長英 小工 拾七人  
川付邑 川上源藏照通 産子中  
飯原邑 波多江太兵衛藤義 領内中

長嶽山神宮寺七十一世中興交芻密城謹誌焉

一 本殿改築棟札

一切日皆善一切宿皆賢 元文三戊午年 大檀越  
諸仏皆威徳羅漢皆斷漏痛 奉再建築前怡土宇美八幡宮  
以斯誠実言願我常吉祥 正月吉祥日 本願代主

奥平大膳大夫昌章  
本社一字

天下泰平 五穀豊饒  
国土安穩 万民快樂  
日月清明 除災延命  
長岳山神宮寺宝蔵坊七十一世博辨風雨順時 如意満足

三 天降宮神殿改築棟札



一切日皆善一切宿皆賢

奉造五天神宮本社

羅漢皆斷病 以斯誠実言

願我常吉祥

諸仏皆威徳

為天下泰平国土

大檀那願主古家龍右エ門尉義信  
安全氏子繁昌也

大工 波多江金右衛門尉  
小工

裏



仁徳十年開基

南無堅牢地神輿諸眷属  
南無五帝竜王侍者眷属

時享保十六年  
辛亥十一月吉日


長岳山神宮寺七十世住呂權大僧都法印博辨書之

以上

大正四年八月五日

糸島郡長糸村

郷社 宇美八幡宮

社司 武内寅男 

糸島郡長糸村大字小蔵

無格社 熊野神社

福岡縣神社誌料調書

一 名称

社格 ナシ

社名 熊野神社

由来 熊野參神ヲ奉斎スルニヨル

所在地名 長糸村大字小蔵

由来 小蔵寺ニ因リ起リシナルベシ旧ハ長野庄ノ内ナリシナリ

二 祭神

伊奘冊尊 速玉男命 事解男命 大山祇命

三 鎮坐

筑前統風土記ニ小倉山ナル条下ニ上略又熊野三所権現ノ社アリ龍樹権現モ相殿ニ祭レリ十一月十八日祭礼アリ女人參詣ヲ免サズ杜家者ノ説ニハ神功皇后ノ勸請シ賜ヒシ靈場ナリト云ヘリ然ニハアラス聖武天皇ノ勅願トシテ清賀上人寺ヲ建テ小倉寺ト号ス社ノ下ニ古仏ノ觀世音堂アリ足利尊氏其外国主領主ノ願書寄進狀等甚ダ多シ然レドモ雨ニ朽チ虫ニ喰マレテ確ニ見ズ云々トアリ

延享二年ノ記録(武内家所蔵)ニ 怡土郡世野神宮寺支配

青龍大権現 大用山 小蔵寺

本地 十一面觀世音 清賀作

準貳觀世音

法持聖清賀開基聖武天皇勅願所真言密地靈場トアルハ此神社ノ事ナリ 明治十五年願濟ノ上小蔵全村ノ氏神トシテ崇敬ス

大山祇命ハ從來大山祇神社ト称シ字山中ニ鎮坐ノ処明治十五年七月願濟ノ上合祀ス

四 祭祀

七月十八日 夏季大祭

十月十五日 新嘗祭

十二月十八日 例祭 年中祭<sup>最</sup>大祭ナリ

古例アリ十八日朝八ツ半時滔々大鼓ヲ打テ巴邑内ノ莊者一齋<sup>莊</sup>二境内ニ集ル此処ニ赤禰トナリ寒風ヲ冒シ炬火ヲ翳シ兼テ準備シアル氏子中ヨ

リ奉納ノ和稻(約半俵)ヲ大桶ニ谷ノ大川ニ舁キ行キ此処ニテ神職修

祓ノ式ヲ行ヒ一全急湍ニ入ッテ禊ス米ヲ浙グ事七度濯グ事七度終ッテ再ビ掛声勇シク境内ニ向フ此間約一時間ナリ季ハ師走ナリ処ハ高山之溪谷ナリ而モ毎年今夜雪ヲ見ル寒風膚ヲ刮リ薄氷石ヲ抱ミ流水宛然氷ト怪シマル、時數十ノ裸身河中ニ跳ル喚声闇ヲ破ッテ響キ搏撃自ラ起ル激沫迸リ白煙立昇ル矣ニ壯觀ナリ近郷奇トシ此夜男女此山村ニ集マリ兩岸人ヲ以テ滿サルトモ宜ナリ觀者揮身ノ血ノ湧クヲ覺ユ暫テ境内ニ着シ炬火ヲ薪ニ還シ飯ヲ煮ツ、身体之暖ヲ取ル漸クニシテ我ニ帰ル感アリ此清浄ナル蒸飯出来上レバ御食三膳ニ盛ル其法強イテ之ヲ高クシテ止マズ遂ニ顛頂ノ崩壞スルヲ見テ其翌年田ノ吉凶禍福ヲトシ其方尙ニ當ッテ旅セズ婚セズ諸事ヲ謹ム漸ク是ヲ神前ニ献シ一全此処ニ黎明ヲ待チ種々ノ供物ヲ奉リテ大祭ヲ行フ今ニ盛ナリ古来此式ニ加ハル者一年中無病息災ナリトテ老幼モ奮ッテ赴クモノ多シ

#### 五 奉幣

続風土記云フ聖武天皇ノ勅願所ナリト今証憑ナシ從來祭具裝飾品ニ菊花ノ御紋章ト八剣ノ神紋トヲ併セ用ヒ来リシモ今ハ法規ノ定ムル処ニ隨フ

続風土記ニ云ヘルが如キ文書今ハナシ往古ノ様知ルヨシナリ

#### 六 社殿

神殿 再建 天文十年 從五位下原田彈正少弼大藏朝臣隆種（棟札

ニ載）建立模様不詳（現在社殿ニシテ流造

横一間入一間三尺）

神殿 上屋 新築 大正三年 氏子中

拝殿 改築 大正二年 氏子中

#### 七 社僧

寺号大用山小寺ト号ス続風土記ハ山倉山小倉寺ト記シ延享二年古記録大用山小藏寺ト書ケリ長嶽山神宮寺（宇美八幡宮別当）ノ支配ニシテ密接ノ關係アリ別ニ社僧ヲ置カズ怡土七ヶ寺ノ一二数ヘラル古刹ナリ

#### 八 棟札

一切日皆善一切宿普賢 大旦主從五位下原田

諸仏皆威徳羅漢皆斷漏 奉再興鎮西筑洲長野庄小藏寺

——（文字不詳）—— 武運長久家門安

彈正少弼大藏朝臣隆種 大工藤原正吉

鎮守權現一字 天文十年辛丑三月吉日住持比丘壽才敬白

全所人快樂一々求願比令満足之故而已 小工 五人

#### 以上

大正四年八月七日

糸島郡長糸村大字小藏

熊野神社

社掌 武内富男 公印

長糸村大字飯原

村社 雉琴神社

福岡縣神社誌料調書

一 名称

社格 村社

社名 雉琴神社

由来 雉琴神社由来記(宮崎之胤撰)ニ上略『往昔神功皇后三朝韓ヲ

征シ賜ハントテ此地ニ来マシ戰勝ヲ祈リ賜フ時ニ雉子ノ鳴声ヲ

琴ノ音ニ聞ナシテ御夢覺メ賜フ云々故ニ此所ヲ雉琴ト号シ雉琴

神社ト崇ム下略』トアリ

社説右ニ全シ

所在地名 糸島郡長糸村大字飯原

由来 飯原ノ名応永卅四年古文書ニ見ユ何時ノ頃ヨリ起リシカ不詳ナ

リ。始此土旧長野庄ト称セシ地域ナリ(筑前誌云フ)

長糸村ノ名明治二十年市町村制ヲ創設セラル、ニ当リ長野邑飯

原邑本邑外三邑ヲ合シテ長飯本村(ナガイヒモトト訓ム)ト称

ス後是ヲ約シテ長糸村トナス長野庄ノ名倭名鈔ニ載セラル本村

ノ大邑ヲナシ赫々今ニ伝ハル実ニ一千余年ヲ經過セル本郡唯一

ノ郷名ナリ以テ此村ニ名付ケザリシヲ憾トス

二 祭神

日本武尊

三 鎮坐

当社ハ神功皇后三韓御征討ノ途次此地ニ来マシ戰捷ヲ祈ラセ給フ時日

本武尊大御夢ニ顯レ賜ヒテ賊徒誅伐ノ法ヲ示シ賜フ故ニ御還啓ノ後此

処ニ奉齋セシメ給フ延享二年ノ記録ニ

雉子琴大明神

祢宜 中原出羽

日本武命

神功皇后祭賜之攸也

ト記載シアリ 明治十四年許可飯原村氏神トス明治三十三年六月廿九

日村社ニ昇格セラル明治三十九年神饌幣料供進神社ニ指定セラ

四 祭祀

一月一日 歳旦祭

五月三日 祈年祭 幣帛供進使参向

九月廿三日 例祭 幣帛供進使参向ス社前ヲ流ル、琴川ノ下流約二丁

遠宇祁ノ森ニ神幸ノ式アリ氏子一般供奉ス神事嚴

重ナリ

十一月二十三日 新嘗祭 幣帛供進使参向ス

五 社殿

神殿 改築 年月不詳 流作薄葺キ

拜殿 改築 年月不詳

神饌所 改築 年月不詳

境内神社 三社 不詳



六 社家

中原家アリ吉田家ノ裁許状ニ往昔ヨリ神主ト称シ正保以後ハ系譜モ明瞭ナル由 慶応四年ノ書上ニ記載シアリ代々専ラ此神社ニ奉仕セシガ今ハ絶タリ維新ノ際国事ニ殫レ贈位ノ恩典ニ浴シタル中原出羽ハ此家ノ出ナリ

以上

大正四年八月九日

糸島郡長糸村大字飯原

村社 雉琴神社

社掌 武内寅男 公印

糸島郡長糸村瀬戸

村社 天降神社

福岡縣神社誌料調書

一 名称

社格 村社

社名 天降神社

由来 天孫瓊々杵ノ尊ヲ奉斎セルニヨル

所在地名 糸島郡長糸村大字瀬戸

由来 旧ハ一貴山村ノ内波呂長石ヲ合セテ瀬戸郷ト云ヘリ

瀬戸ノ名山勢急ニ南北ヨリ逼リ一貴山及長糸村ノ両平野纒ニ

此地ヲ以テ連続セリ因ツテ起リシ名ナルベシ往古ハ此地迄海  
水ノ進入シ居リシト云フ

二 祭神

瓊々杵尊 菅原道真命 誉田別尊 氣長足姬命

三 鎮坐

人皇百六代後奈良天皇ノ天文十五年ノ建立ニシテ棟札ニ大檀那大藏朝臣原田彈正少弼隆種殊造立旦那安曇朝臣西長門守豊國トアリ最初瓊々杵尊菅原道真尊ニ神ヲ奉斎シ天降神社ト号ス祭神誉田別尊ハ八幡神社トシテ字西山田ニ鎮坐アリシヲ明治二十一年許可ヲ受合祀ス又祭神菅原道真命ハ老松神社トシテ字大瀬戸ニ鎮坐アリシヲ全年許可ヲ受合祀合霊ス祭神氣長足姬命ハ高田神社トシテ横田ニ鎮坐アリシヲ明治四十四三年許可ヲ受合祀ス大正二年神饌幣帛料供進神社ニ指定セララル

四 祭祀

一月一日 歳旦祭

四月三日 祈年祭 幣帛供進使参向ス

七月廿一日 (土用三郎) 夏季大祭

十一月廿五日 新嘗祭 幣帛供進使参向ス

十二月十四日十五日 例祭 村内役員格数名十四日ヨリ境内参籠所ニ

忌籠ス終夜通夜シテ一睡セズ十五日午

前八時幣帛供進使参向ス祭事嚴重ナリ

午前十時ヨリ宮坐直会式アリ坐席列序

アリ饗宴古例アリ総ベテ厳密ニシテ今

ニ伝ハル

宇美八幡宮 雉琴神社 天降神社 熊野神社 福岡縣神社誌料調書 合綴 (大正四年) (中西・井上)

五 奉幣

棟札ノ銘文ニ

天文十五年大檀那大藏朝臣原田彈正少弼隆種殊造立旦那安曇朝臣西長門守豊國トアリ高租城立ノ奉齋崇敬アリシ神社ナリト云ヒ伝フ

尚又別ニ延宝三年建立者古川佐次衛門尉久重宝曆十二年大檀越興平大膳大夫昌邦本願施主古川茂助正澄瀬戸邑産民ト記載ノ棟札アリ

本殿龜腹石彫刻銘文ニ

宝曆十二年字十王堂 一、上田八畝七步 奉納者 古川茂助正澄

全 字十王堂 一、下畑式拾八步 奉納者 古川茂助正澄

全 字ム田 一、下田一反五畝歩半 同 福井甚右エ門信秀

全 ヒシヤテ 一、上田八畝拾五歩 同 福井庄右エ門政秀

弘化二年 字ムタ 一、下田七畝拾四歩 同 福井儀三郎秀鑑

トアリ此外全一時代ニ

字 小深 一、下々田壹反四畝式拾五歩半 奉納者 古川惣次

字 小深 一、下々田壹反四畝

字 小深のさき 一、田式畝五歩半 同 古川惣次

(右田畑迫並帳ニ依ル)

右二筆ノ寄進アリ宝曆十二年ノ本殿建立棟札ノ裏書ニ倚ルニ時ノ産子

古川正澄ト云ヘル人率先自ラ巨額ノ資産ヲ神納シ氏子庶民ヲ奨励シテ

荒廢シタル神社ヲ改築シ且又社殿永遠ノ修覆ヨリ年中恒例ノ祭祀ニ至

ル経費ノ資産ヲ確立セラレタルヲ知ル

六 社殿

本殿 建立 天文十五年 大檀那大藏朝臣原田彈正少弼隆種殊造立旦

那安曇朝臣西長門守豊國

再築 延宝三年 建立者 古川佐次右衛門尉久重

改築 宝曆十二年 建立者 古川茂助正澄

瀬戸邑村民

(現存社殿ニシテ伽藍造繩千鳥破風屋根向拝唐破風造)

拝殿 不詳

宝蔵 新築 明治二十五年

社務所

參籠所合棟 新築 大正二年

七 社家

古川家アリ延享二年ノ記録ニ怡土郡瀬戸村天下天神祢宜古川左近宝曆

十二年棟札ニ社官古川帶刀トアルハ共ニ此家ナリ今姓ヲ(明治二〇〇〇)

細川ト改ム其末豊(明治廿五年迄祠掌拜命)ニ至ル代々社務ヲ奉仕セ

シが今ハ改職実業ニ従事ス享保以後ハ世代明瞭ナリ

八 棟札

一 本殿建立棟札

式天泰平四海靜謐家門繁榮武運長久

龍共奉建立筑前国怡土郡瀬戸村天降天神宮御宝殿一字

万民快樂五穀豐饒 天文十五丙午年卯月

壽命長遠子孫繁昌一切望如意吉祥

右意趣者大檀那大藏朝臣原田彈正少弼隆種殊造立亘那安曇朝臣西長門守豊国

吉日 大工藤原政宗 小工 五人

二 本殿再築棟札

延宝三乙卯 天曆

亥

奉再興筑陽怡土郡瀬戸村天下天神宮一字大旦那右意趣

九月 吉祥月

天下泰平

初造 原田彈正少弼隆種

郷村安寧

次造 西長門守豊國 大工

五穀成就

今建者 古川佐次右衛門尉久重

万民享樂

溝口七左工門尉  
永村市良右工門  
古川庄左衛門  
吉浦治兵衛  
村中氏子中

三 本殿再築棟札

表書

亥

宝曆十二壬午年

天長地久国家豊饒

奉再建天満宮本殿一字

十二月成就日

村中安全子孫繁盛

大檀那奥平大膳大夫昌邦公  
社宦古川帶刀  
古川茂助正澄  
古川邑産民  
本願施主  
棟梁 福井兵三郎  
別当長岳山神宮寺現住法印蜜城謹誌  
瀨戸邑産民  
林 助 市

全裏書

筑前国怡土郡世戸村

天満宮者徒往古垂跡於此里加光於産民由来久矣凡物久而變終須改造爰  
故殿柱朽弊信心産子古川氏正澄發願而再建寄投若干資材産民同志合力  
運送土木役使營事工能民努不日而華麗社殿傑起于林中 神威△輝黎庶  
僧榮且古川正澄福井信秀同姓政秀寄附莊田為村中神社仏閣修覆料可謂  
須道修覆永固也

伏願本願主子孫長久同志産民家門榮

昌国富郷豊経幾千年

沙門蜜城敬書

以上

大正四年八月十日調書書上(未不全)

糸島郡長糸村大字瀬戸

村社天降神社

社掌 武内富男 公印

宇美八幡宮 雉琴神社 天降神社 熊野神社 福岡縣神社誌料調書

合綴(大正四年)(中西・井上)

惜誌料減却  
憾考書難得  
期日切迫遂  
不得全待於  
後日而漸補  
足

大正四年八月十日

武内富男誌  
時之社務也